

呉駅周辺地域総合開発に関する懇談会 摘録

1 日 時 平成30年5月2日（火）13時～16時30分

2 場 所 呉市役所本庁舎 757・758会議室

3 概要・骨子

13:00

【市長挨拶】

呉市長の新原でございます。

皆様方には、呉駅周辺地域総合開発に関する懇談会の委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。

また今日は、連休の谷間で大変貴重な時間を割いて皆様にはご出席いただきまして、重ねてありがとうございます。

また、羽藤先生には特に日本でも有数のお忙しい方で、分刻みで毎日動いておられる方で、今日は本当にありがとうございます。

この懇談会は、呉市が世界に誇れる交流都市へと発展していくために、そのメインゲートとなる呉駅周辺地域を総合的に開発いたしまして、ショッピングあるいは観光、あるいは次代を先取る働き方に対応する地域の拠点となる総合ターミナルとして生まれ変わらせることを目指しております。

この席には、世界最先端、日本でも有数の知能あるいは専門家の方にお集まりをいただいております。

これから、日本中で注目される、そして世界でもひょっとしたら注目される、そして呉市民がワクワクドキドキするような思い切ったご提案をいただけますように期待をしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【委員等紹介】 省略

【運営上の申し合わせ事項】

〔 資料2に記載のとおり、全委員が申し合わせ事項を了解。 〕

【座長・副座長の互選】

互選により、座長に 羽藤 英二 委員 を選出
座長の指名により、副座長に 塚井 誠人 委員 を選出

13:15

【現地視察】

○視察ルート

そごう呉店跡地前 → 呉駅北側自由通路 → 呉駅前広場周辺
→ 呉駅南側自由通路 → 大和ミュージアム周辺 → 呉中央栈橋
→ 青山クラブ(車内から)

14:30

【会議室にて、現状と課題につき事務局から説明】

〔資料5により説明〕

14:50

【意見交換】

委員からの主な意見は次のとおり

1. 今後の方向性について

- 呉駅周辺をまちづくりの中心として考えて行く場合、駅を挟み北側と南側をシームレスに繋げていくことが重要になる。線路を上空に上げ、歩行者が下を通るのか、デッキを上空に上げ、歩行者が上を通るのか、常に意識しながら議論を進めていく必要がある。
- 地図、写真、現地を見比べてみると、最近、建築されたと思われる新たな建物も見受けられる。そういった制約条件も踏まえていく必要がある。
- 呉駅のメインゲートの機能は、各地域をコンパクトにし、そこを繋いでいくというコンセプトになる。駅周辺を中心として、にぎわいを持たせながら、どのように有機的につなげていくのかが重要になる。
- モビリティの在り方も含め、モデル的なものを考えて行けたら良い。

- 大和ミュージアムには多くの賑わいがある。
青山クラブや中通りとの回遊性に加え、島嶼部、広島空港、広島市などに向けた広域的なハブという概念を共有していく。
- デッキを作る，バスタ新宿のようなイメージとする，などアイデアは様々あると思う。道路・港を含め，今までにないようなものを検討していく。現在の呉駅は必ずしも市民が使いやすい駅になっていない。使いやすい駅にしたい。
- 駅前の^{くうち}空地では，市民の方にフリーマーケットに参加してもらうなど，様々な使い方が考えられる。そういったことを考える場合にも，モビリティがポイントになる。箱ものだけではなく，人が楽しむ，みんなが参加できるサービスというものも考えられる。

2. 呉港の現況と活用可能性について

- 広域的なハブの例として，呉には御手洗を始めとする瀬戸内海の魅力的な地域資源がある。駅・国道・港が非常に近接しているという呉駅周辺地域の強みを活かし，船のツーリズムと結びつけながら，海から陸へ，陸から海へと抜けるルートを検討していったらどうか。
- 県内でも，個々の航路はあるが，有機的な周遊につながっていない。大型船でなくとも，小型・中型船をターゲットに議論を進められるのではないかな。
- 長崎などに観光客が来ているのは，クルーズ船の力のほかに，様々な歴史遺産を活用している点があり，それらを船のツーリズムにより観光に結び付けている。海側の導線を考えていくことは必要不可欠である。

3. 駅周辺での次世代交通について

- 具体的には，今後のシェアリングエコノミーや，ニューモビリティの動向も視野に入れ，駅・国道・港を含めた，シームレスなモビリティ空間への整備など，今までにない視点で議論を深めていく。

- そういった整備をするに当たっては、旧そごう呉店跡地など周辺の低未利用地を含んだエリアの中で、最適な位置・規模を検討する必要がある。
- 議論を進めるに当たっては、例えば、まちづくりにおけるアーバンデザインセンターのような、東京大学、広島大学、できれば呉工業高等専門学校などの研究機関と連携しつつ、市民の皆様にもご参加いただくような進め方を検討してはどうか。

16:30

【確認事項】

- これら意見を、各委員、事務局が持ち帰り、調査・検討を行い、次回に向けて更に議論を深めていくことを確認
- 第2回の懇談会を6月下旬を目途に開催すること、それまでの間も、随時、情報共有、意見交換などコミュニケーションを図っていくことを確認

16:55

【散会】